

事業所名

遊学館「つ・な・ぐー」

支援プログラム

作成日

7年

3月

31日

法人（事業所）理念	○利用者の権利と尊厳を何より優先します。 ○個人の健康と活力の向上への支援を役割とします。 ○求められる専門性は、地域社会に還元いたします。		○一人一人の人格、人間性を重視します。 ○利用者本人のみならず家族への支援を忘れません。			
支援方針	発達にまずきのある児童一人一人の個性や主体性を尊重しながら、個別的な関わりの中で「その子らしさ」を大切にした療育を展開します。特に、表現活動を活発にし、コミュニケーション手段の拡大を図り、小集団活動の中で、人との関わりを通じて対人関係を深め、社会性が身につくよう働きかけます。また、感覚機能を含めた運動機能の向上に努め、日常生活の基本動作の獲得及び、集団生活への適応のための総合的な支援に取り組めます。					
営業時間	8時	30分	17時	30分まで	送迎実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
支 援 内 容						
本人支援	健康・生活	送迎時や来所時に、小学校の先生や保護者への聞き取り、直接的な子どもの観察等により、児童の心身の状態を把握します。その際には、その子の発達段階やその時期の感染症等の流行にも留意し、普段と変わりがないか、小さなサインにも気づけるように、きめ細やかな観察を行います。そして、食事、睡眠等の基本的な生活習慣を形成し、健康状態の維持・改善に必要な生活リズムを身に付けられるよう支援します。来/退所時の身支度や持ち物の自己管理、活動中の体温調節に伴う衣服の着脱や調整等を通して、基本的な生活スキルの獲得を促します。				
	運動・感覚	ホーススイングやサイバーホイール、エアトランポリン等の大型遊具を用い、姿勢や運動、動作の基本的スキルの獲得と、視覚や触覚等の感覚統合を促します。季節に応じて、屋外（公園での遊具遊び・プール・雪遊び等）の活動も取り入れていきます。また、児童が希望する遊びや体験等も取り入れつつ、挑戦や失敗（成功）等の経験を積めるよう活動していきます。スライムやダンシングサンド、制作活動等の机上活動を通じて、姿勢保持や手指操作を促し、保有する感覚を十分に活用しながら、獲得できるよう支援します。その際、児童によっては感覚特性（過敏・鈍麻）もある為、感覚の偏りにも配慮しながら活動を進めます。				
	認知・行動	児童一人一人の認知の特性を理解ながら、情報が適切に伝わり、処理できるよう支援します。視覚的な情報（ホワイトボード、写真、イラスト等）の他、必要に応じてPCやタブレット端末等の機器も活用し、これらの情報を的確な判断や行動に繋げていけるよう支援していきます。そして、色や形、音の変化、大きさや重さ、量といった概念の形成、習得に向けて、児童が興味・関心を持つ遊びや活動をきっかけにしながら、幅を広げていきます。こだわり行動に対しては、そこに繋がる認知の偏りに働きかけ、変化への柔軟な対応や、情緒の安定が図れるよう支援します。				
	言語・コミュニケーション	小集団の環境の下、大人の見守りがある中で、他の児童との遊びや活動を通じて相互のコミュニケーションを取る場面を作っていきます。その中で、言葉によるコミュニケーションだけではなく、表情や身振り等も含めた意思のやり取りが行えるよう、支援していきます。学齢期は、同年代の集団や仲間を好み、大人に頼らず活動しようとする姿も見られる。児童の希望や意向等も汲み取りつつ、大人とも相談や調整（折り合い）等のコミュニケーションも取りながら支援していきます。学校生活では様々な場面や状況も想定される事から、状況に応じたコミュニケーションについても、児童の特性も理解し配慮しながら支援していきます。				
	人間関係・社会性	他の児童と共に活動する時間を通じて、相手の気持ちや意図を理解し、相手からの働きかけを受け止め、それに応じる事や場に応じた行動ができるよう支援していきます。協同遊びに発展していく時期でもある為、大人も介入しながら、お互いに役割分担したり、ルールや決まりを意識する事も取り入れながら、社会性が向上できるよう支援していきます。自分のできる事や苦手な事等、自分の特徴を理解し始める時期でもある為、保護者とも共有しながら、自己理解を促していきます。				
家族支援	療育終了後の保護者との懇談の中で、定期的に子どもに関する情報を共有します。保護者から日々の子育て上のお話を伺いながら、子どもの発達上の課題や成長の気づきを促し、課題への助言を行います。必要に応じて関係機関と連携し、支援体制の構築に努めます。		移行支援		保護者と、子どもの様子を共有する中で、移行先の情報提供や保護者の意向等を確認していきます。具体的には、中学校入学に向け、子どもの発達段階を見立て、具体的な配慮を含め、情報提供や支援内容の伝達、引継ぎを行い、中学校生活がスムーズにスタートできるよう支援します。	
地域支援・地域連携	関係機関へ、電話連絡、見学、訪問等を行うとともに、必要に応じて個別のケース会議を開催し、普段から連携を図り、地域の支援ネットワーク作りに努めます。6年生については入学先の中学校との引継ぎも進めます。その他地域自立支援協議会へ積極的に参加します。		職員の質の向上		○障害福祉関連の研修への参加 ○虐待予防研修への参加 ○事業所内での勉強会の実施	
主な行事等	公園遊び・遊学祭（店舗の運営等）・余暇企画・長期休暇中の活動 等					